

特別支援教育研究論文集

—令和5年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力:独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

障害のある児童生徒一人ひとりの発達段階や
障害特性を踏まえた性に関する指導の充実と発展

山口県立萩総合支援学校

教諭 原 菜月

令和6年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

昨今の学校現場において、障害のある子どもたちに対する性に関する指導は喫緊の課題である。本校は、文部科学省主催の「生命（いのち）の安全教育推進事業」への参画を通して、健康・学校安全部が中心となり性に関する指導の充実に尽力してきた。今年度も当事業に携わり、実践担当校として、山口県内の他特別支援学校と協働しながら取組を進めているところである。本研究は「生命（いのち）の安全教育」と連携しつつ、さまざまな障害や特性がある児童生徒一人ひとりへの性に関する指導をさらに充実および発展させていくことを主題としている。

本研究は「文献調査および研究大会への参加」、「ココカラプロジェクトの発足と推進」、「様式の作成と活用」、「研究授業および研究協議」の方法で進めていった。まず、文献資料や専門書籍の精読、各種研究大会への参加により、学習指導要領における性に関する指導の基本的な考えを明らかにした。次に、研究推進委員会「ココカラプロジェクト」を立ち上げることで、組織体制の充実を図った。計5回にわたる委員会では、研究の指針や具体的な取組内容についての共通理解や各学部の情報交換等を行った。また、「ココカラプロジェクト」と「生命（いのち）の安全教育」が密に連携し、合同委員会を開催することで、学識経験者等を交えた熟議を行うことができたことも、大きな成果である。「生命（いのち）の安全教育」を題材に実践した研究授業は校内外に公開し、学校関係者や外部専門家等多くの方々に見ていただくことができた。協議で得たさまざまな視点からの幅広い指導助言については、今後の取組で生かしていきたい。

そして、本研究の要となるのが「性に関する指導 個人重点目標」である。研究の成果として、全学部の児童生徒に対して、それぞれが性に関する指導において特に重点的に取り組みたい目標を設定することができたとともに、目標について保護者からの理解を得ることもできた。さらに、「性に関する指導 個人重点シート」の作成により、目標の設定理由や具体的な手立てを言語化して整理することができ、またシートを活用することで、教員間で支援の方向性を統一することが可能になった。作成した様式はその他にも「性に関する指導 つながる振り返りシート」や「ココカラだより」等があり、児童生徒一人ひとりの学びを充実させることをねらいとした。保護者と連携しながら性に関する指導を進めることができるようになったこと、個々の目標や支援方法、学習内容が目に見える形で整理され、蓄積できるようになったこと、子ども自身や保護者、あるいは教員の変容を見取ることができたことは、本研究の最も大きな成果と言えよう。一方、地域や福祉、医療機関等との連携や、個々の学習内容を進学先や就労先等に確実に引き継ぐ方法については多くの課題も残されている。

本研究を通して、障害のある子どもたち一人ひとりの性に関する指導の充実と発展のためには、子ども自身の実態や悩みはもちろん、子どもを支える保護者の思いにも向き合い、悩み、考えるという教員の姿勢と、子ども自身、教員、保護者の連携体制が何より大切であると考えようになった。今後は、子どもたち一人ひとりのことをより丁寧に見取り、支援について検討し、保護者と協力しながら進めていくとともに、そのつながりの輪を広げ、地域や医療とも連携および協働しながら、性に関する指導の更なる充実と発展について、学校を挙げて取り組んでいきたい。

キーワード：性に関する指導、生命（いのち）の安全教育、ココカラプロジェクト、個人重点目標